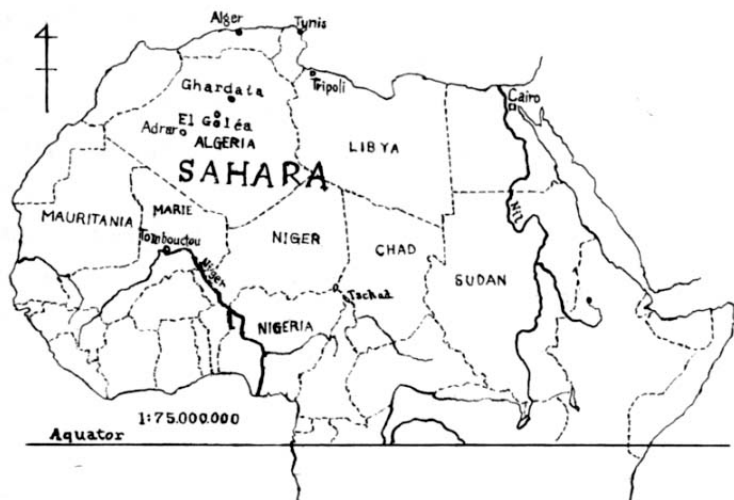


「サハラ沙漠探検」経過報告

山 本 三 郎



○ 現在までの経過

昭和44年10月8日、松本繁文・山本三郎によりサハラ沙漠縦断を決定する。10月中は我々の知識向上を計る予定で、関西大学教授藤本勝次同助教授末尾至行各氏に会う。そこで我々の行なおうとしている事が、真の学生探検であるかという点について、度々論議を交す。

その結果、我々の学生探検論を出し、学生時代にしか行なえない探検、学生にしか行なえない探検を考え始める。10月末我々はサハラ遊牧民のトゥアレグ族に興味を持ち始めた。

その根拠は、他の遊牧民と異なり、青いベールをかぶり、そして長い槍と楯を持つている姿が大変すばらしいというごく単純な発想であつた。

11月に入り合田博を得、ますます計画は発展

していった。まずトゥアレグ族調査について再び論議を重ねた。それで今日に至る。

○ これからの予定

先にも述べた通り、我々の計画はサハラ沙漠のアハガル山塊におけるトゥアレグ遊牧民族の探検調査とこれに附随している西サハラ縦断である。関西大学の教授陣によるオアシス調査、朝日新聞社記者森本哲郎氏とカメラマン富山治夫氏に

よるタツシリ壁画調査に関する計画も現在我々のサハラ探検計画に盛り込もうと交渉し、返事を待つばかりとなつている。3者共同し、45年1月中に「サハラ沙漠に関する情報交換の会」というような社会的な会を作り、サハラに関する資料、知識を吸収し、最終的な計画書とその説明書作成の予定である。

44年度中に次の各氏に会う予定である。

山下孝介(京大) 中尾佐助(大阪府大)

梅棹忠夫(京大) 木村重信(京都美大)

大橋保夫(京大) 西岡香織(サンケイ新聞社)

異民族調査を考え、最低半年以上、それも夏にトゥアレグの中に入り、最小限の文明の利器で、生活を全て共にする。そこで得た沙漠の知恵を用

い、西サハラ縦断を行なうことに決定した。11月9日から4日間、東京で東大教授小堀巖・朝日新聞社森本哲郎・早大サハラ隊隊長和田匡弘各氏に会ったが、日本人の調査隊は冬に入っているか又は短い期間しか入っていないので、夏のサハラについて詳しい知識は得られなかった。

又、サハラ沙漠遊牧民に関する日本の本はほとんどなく、あるといえはルポ形式のもの位であるということもわかった。しかし我々はなお専門的な本を求め続けたが、末尾氏に専門的に走るなど指摘され、学生であるという意識を再認識させられた。そこで我々は、次に現地に行つた人達に直接会つて、話を聞く事に方向を変更した。

最近現地に行つてきた人に会う事と平行してサハラに関するフランスの本を読もうと思う。

※ サハラに関する文献

D・ボーム 「アフリカの民族と文化」

J・スコール 「青い種族」

須田昭義・香原勢訳「人種」

高橋統一 「現代文化人類学 "人間の生活"」

須田昭義編 「人類学読本」

H・セルーヤ 「アラブの思想」

J・ガンサー 「アフリカの内幕」

H・ラブレ 「黒いアフリカの歴史」

H・デシヤン 「黒いアフリカの宗教」

Briggs, L.C. ; The Living Races of the Sahara Desert.
Papers of Peabody Museum of Archaeology
and Ethnology, Harvard University, vol. xxvlll,
no. 2, 1958

Fitzgerald, W. ; Africa, A Social, Economic and Political Geography of its Major Regions (8th Ed.) 1955 pp. 55-61

Murdock, G.P. , ; Africa, Its Peoples and Their Culture History.
McGraw-Hill (1959) pp. 124-33. 405-9

Baumann, Heet Westermann, D. ; Les peuples et les civilisation de l'Afrique.
(traduction Francaise Par L, Hom-
burger) 1948 pp. 426-30

(文学部1回生)

